

第 59 話<和合会総会>の要約と参考資料

第 59 話<和合会総会>の要約

1890 年に和合会を創設した佐藤善縁さんは、盟約条例の前文を書いて、和合会の根底にある誠の道について説きました。集落の中の裕福な人が基金をだしあい、困窮者を救うためにつくった金融互助組織の和合会は、誠をきわめた人たちのおこないだと考えていたのです。

第 59 話<和合会総会>の参考資料

59-1 和合会総会について

佐藤勝さんの話（1971 年 11 月聴取）

年に 2 回ずつ総会を開いて、ときに臨時会も開く。

*和合会議事録 明治 44 年 5 月 25 日

会日ハ毎年 5 月、11 月各 25 日開会ノ事ニ決定ス

佐藤藤太さんの話（1977 年 3 月 2 日、電話で聴取）

朝 8 時ごろから夕方 4 時ごろまで、1 日仕事を休んで開いた。世間話も出て、窮屈な話ばかりじゃなかった。各家を持ち回りで開き、40～50 人が車座になった。会長が議事を進行した。議事は、その日の朝早く、役員が集まって相談して決めた。みんな弁当を持っていき、話し合いのときはお茶が出るだけ、会が終わったあと焼酎を飲んだ。わしどんが行くころ、お経を読んだりすることはなかった。泉福寺からもめつたに来んかった。亜ヒ酸のことが議題になると、鉦山が「金を出すから焼かせろ」ちゅうもんで、内輪喧嘩みたいなこともあった。

*和合会議事録 明治 44 年 5 月 25 日

毎会、和合会関係者ハ 9 時揃、他ハ 1 時揃ヒノコトニ決定ス

59-2 初めて煙害を議題にした和合会総会（1923 年 5 月 25 日）

川原一之著「口伝 亜砒焼き谷」（P31～34）より

部落の重要な問題は「和合会」という寄りあいで話合うておったがの。その定期総会が近づいてきた。大正 12 年 5 月 25 日、南の「中」の宝蔵さん^ぢ家で開かれることになっておった。

和合会の総会は、慣例として朝 9 時に開かるる。役員はその 1 時間前に、会場の宝蔵さん方へ集まっちきた。副会長の「畑中」の竹松さん、幹事が「樋の口」の助さんと「畑

中の下」の平作さん、取締役は「笠」の利四郎さん、「中鶴」の萬蔵さん、「中間」の栄蔵さん、「母屋」の一蔵さん、「神地」の節蔵さん、「岩下」の正喜さんの6人。こん日、会長の「惣見」の為三郎さんは欠席した。役員任期は3年でな。前の年2月の総会で選出された顔ぶれは、惣見組から4人、南組から2人、畑中組から4人、合わせて10人じや。会長の為三郎さんを除く9人で、なにを議題にとりあぐるか話し合つた。

和合会は時間厳守の集まりでよ。規約にもちゃんと遅刻、欠席、無届欠席者から、それぞれ過料をとると定めてある。定刻の9時までに「お願いします」と声をかけながら、役員をふくめ42人の部落ん衆が顔をそろえた。(略)

宝蔵さん方のオモテにみなが車座になって、お茶の配られたところで、竹松さんが開会の挨拶をした。午前中は、和合会で農産物の共同販売や物品の共同購入をして、会として利殖をはかつてはどうかちゅう提案に、話はずんだ。お昼には、それぞれ持参の弁当を開いて、世間話の花が咲く。(略) 午後になって、いよいよ亜硫酸害毒の問題が議題になった。(略)

異変はすべて、鉾山で亜硫酸焼きが始まったあと起きておる。鉾山のまわりから、だんだん遠くへ広がつちきたことを考えても、原因が鉾山にあるちゅうことは、誰の目にもはつきりしちよる。総会は全員一致でこう決めた。

「害毒予防法トシテハ、完全ナル設備ヲナシ事業ヲナサレン事、会員一同満場一致ニテ、当事務主任者へ願フコト」

59-3 和合会盟約条例の前文

和合会盟約条例の構成

(表紙) 和合會盟約条例

(扉) 本村大字岩戸土呂久門ニ於テ創立スル和合會盟約條例ヲ認定ス

印 明治二十三年九月十三日

西臼杵郡岩戸村長 土持信敬

(前文) 人奈連哉 人奈連哉誠の人奈連哉

世人皆五官を 供へ其上紅顔姿状嚴美奈る 登喜を何を以て 誠否別たむ哉 そハ唯皮相の美誠尔して 佞能字尔近し余が事に 謂処の誠の人ハ 忠孝仁義の四柱を以て一家一村一国を創立し 身業 口業 意業 共ニ清正なる 達誠の人と云 爾

編者 佐藤善縁 識ス

明治二十三年六月

* 和合会盟約条例を開くと、最初に、岩戸村長が公印を押した認定証がでてくる。和合会は、金融機関として機能することを公的に認められた組織だったのだ。本文に

はいる前に前文が置かれ、そこで佐藤善縁は公衆（土呂久の人びと）に対し、姿や形の美しさではなく身業（行動）、口業（言葉）、意業（意識）の清く正しい誠の人になれ、と説いている。

59-4 和合会盟約条例の制課

第一条

此条例ハ崇徳奥仁ノ誠意ヨリ生リ一般人民ノ根守ス可大義タルカ故ニ当門中協議ノ上永久ニ之行使ス

59-5 満場一致方式について

きだみのる著「にっぽん部落」より

部落の生活で根幹的に大切なことは何か。それは部落が何事につけても一つに纏ることだ。これは協調、協同、協力、封建的な言葉でいうと和を予想する。(略)すべての問題にすべての住民がすべての機会に常に同じ意見であり得ないことは明らかだ。したがって部落が一つに纏るには、他に対する自発的服従或いは自己制限が必要となる。(P8)

部落を割るのは最大の悪徳で、その和合は最大の善だ。(P76)

部落議会じゃあ、村議会でもそうだが、10人ちゅう7人賛成なら、残りの3人は部落のつきあいのため自分の主張をあきらめて賛成するのが、昔からの仕来りよ。(P82)

これでは、全会一致主義は封建的、作為的、少数派圧殺というより、部落の暮らし第一主義の現れ……(P82)